

SCRAP BOOK

モヤモヤがすっきりする言葉を集めよう

スクラップ読書ノート



我孫子市オンライン男女共同参画連続講座2023
みんなが生きやすい社会になる
ジェンダーブックトークから



我孫子市役所
男女共同参画室

&

あびこ市民活動ステーション
あびじよカフェ



我孫子市オンライン男女共同参画連続講座2023

全(オンライン
(Zoom)で
参加できます

みんなが生きやすい社会になる

ジェンダー ブックトーク

本を読んでもいなくても大丈夫。
でもきっと読んでみたくなる。3回連続講座です。
最近よく耳にするようになった「ジェンダー」をテーマに、
学び、話を聞き、語り合うことをZoomを使って行います。
性別を問わず誰もが、ジェンダーのモヤモヤから
解放されて、元気になれることを目指します。
ご家庭から、気楽にご参加ください。



①
ワークショップ

著者に会ってみたいかな？

『ヘルジャパンを女が自由に
楽しく生き延びる方法』読書会

10月14日(土)
10:00~12:00



当講座でおなじみ、ファシリテーターの
野原里枝さんが、今回も3回通して、みなさんをご案内します。
ワークショップが苦手な方も、きっと楽しくなりますよ！



②
講演会

著者に質問してみよう

作家・アルテイシアさんに聞く
次世代につながるジェンダー対話
11月11日(土) 10:00~12:00

①ワークショップで取り上げた本の著者
アルテイシアさんが講師です。この本以外にも
ジェンダーをテーマに多数の著書があり、
全国各地で講演会の講師を務めています。
前半は、アルテイシアさんの話を聞き、「ジェ
ンダー意識をアップデートしていく」ことの
大切さを学びます。後半は、ワークショップ
や講演を通しての質問を講師に直接回答し
てもらえる「ジェンダー対話」の時間です。



③
交流会

本を通じて
ジェンダーのモヤモヤを
話せる仲間づくり



12月3日(日)
13:00~15:00

会場(京成我孫子駅南口、ITやキア
ラゲ11階)とZoomをつないでハイ
ブリッド開催。

「我孫子市オンライン男女共同参画連続講座2023」のチ
ラシ(講座は終了しています)

主催:我孫子市 協力:あびこ市民活動ステーション あびじよカフェ

INDEX

モヤモヤがすっきりする言葉を集めよう

スクラップ読書ノート

- ジェンダーのモヤモヤがすっきりする言葉を集めよう
作家・アルテイシアさんに聞く 次世代につながるジェンダー対話
「我孫子市オンライン男女共同参画連続講座2023 第2回講演会」抄録…………… p4
★アルテイシアさんの講演内容から、キーワードを拾い出して再編集しました。

- 作ってみよう スクラップ読書ノート
『ヘルジャパンを女が自由に楽しく生き延びる方法』…………… p10
『離婚しそうな私が結婚を続けている29の理由』…………… p12
★あびこ市民活動ステーション・コーディネーターの片岡綾さんによる
「スクラップ読書ノート」の作り方を紹介します。

- スクラップ読書ノート…………… p14
★あなたの「スクラップ読書ノート」を作ってみましょう。
4冊分の書き込みシートです。

- 我孫子市オンライン男女共同参画連続講座2023開催報告…………… p22
★あびこ市民活動ステーション・コーディネーターで講座の総合ファシリテーターの
野際里枝さんによるグラレコで、講座の様子を紹介します。

我孫子市では2023年10月から12月にかけて、「オンライン男女共同参画連続講座」を開催しました。全3回を通して、オンライン上で安心しておしゃべりできる居場所づくりを目指し、参加者同士の交流を図りました。講座内容を参加者以外の人にも伝えたいと作ったのがこの情報誌です。

イラストカット 野際里枝さん



ジェンダーのモヤモヤがすっきりする言葉を集めよう

作家・アルテイシアさんに聞く 次世代につなぐジェンダー対話

「我孫子市オンライン男女共同参画連続講座2023 第2回講演会」抄録

アルテイシアさんの講演内容から、キーワードを拾い出して再編集しました。誌面の都合で、用語解説などは最小限にとどめています。また、実際はもっと、モヤモヤしていたことが吹き飛ばすような、元気が出る語り口でした。より詳しいことを知りたい方、講演の雰囲気を知って元気になりたいと思った方はぜひ、アルテイシアさんの本を読んでください。7ページに「読んでみよう！ アルテイシアさんの本」を掲載しています。



講師のアルテイシアさん
画像は、オンライン講座の画面
キャプチャによるため、不鮮明
な点はご了承ください。

ジェンダー知らなきゃ ヤバイ時代がやってきた

私は中学、高校とキリスト教の女子校で過ごしました。当然、学内では「女子生徒」ではなく単なる「生徒」で、会長も部活動の部長もみんな女性です。誰もが「女のくせに」と言われることはなく、男子がいなくて困ったことも一度もありませんでした。

大学は共学で、その途端に男尊女卑の社会を知りました。「賢い女は嫌いだ」とか、自分の意見を言うと「女のくせに生意気だ、でしゃばるな」とかは日常のことでした。飲み会では「お前みたいなブスと飲みたくないんだよ」と言われて言い返せず、「ブスな私がいけない」と傷ついていました。社会人になってもセクハラ、パワハラが当たり前でしたが、ある時、フェミニズムに出会って救われました。フェミニズムは、ブスな私がいけないのではなく、悪いのは相手であり、私は怒ってよいのだと教えてくれました。自尊心を取り戻すことができました。私のように傷つく人がいなくなることを願い、フェミニズムやジェンダーについて広く伝えていこうと、ブログを書き始めました。本も出したかったのですが、当時は出版社から「このテーマは出版しても需要がない」と断られたものです。

しかしこの数年、#MeToo運動の動きもあって、世の中ずいぶん変わってきました。フェミニズムやジェンダーについて普段から見聞きするようになり、「ジェンダー知らなきゃヤバイ時代がやってきた」と感じている人が増えたと実感しています。私もたくさん本を書き、取材や講演、学校での授業の依頼を受けるようになりました。講演会や授業では女性だけでなく男性からも、よい反響をいただけるようになり、最近では、男性にも伝わるような発信を心がけています。

フェミニストの敵は 男性ではなく「性差別をする人」

子どもたちに授業で話すのは楽しいです。男子校にも呼ばれます。最初はとても警戒されているのが、ひしひしと伝わってきます。でも話しているうちに、彼らの警戒心が解けていくのがわかります。

授業は「フェミニズムとは？」から始めます。フェミニズムとは、性差別をなくそうという考え方だと話します。そしてフェミニストは「性差別に反対する人」、その反対はセクシスト、つまり「性差別主義者」です。フェミニズムというと「女vs男」とか、フェミニストは男嫌い、男の

敵とかいったレッテルを貼られがちですが、フェミニズムが嫌っているのは男性ではありません。性差別や性暴力であり、その構造やそれに加担する人々です。つまり、性差別に反対なら、男性でもフェミニストです。すると、男子学生たちから「フェミニストの見方が変わった」「自分もフェミニストだと気づいた」と反響があります。

男らしさ・女らしさの「型」にあてはめるのはやめましょう

ジェンダーについては、「男らしさ・女らしさ」といった『型』みたいなもの」だと話します。「型」を押し付ける社会では、「型」にあてはまらない人は叩かれます。たとえば「女のくせに料理もできないなんて」「稼げないなんて男失格だな」と言われることです。もちろん、男性が男らしくありたいと思っても構わない。でも、そうでなくても構わない。男らしさ・女らしさという「型」にあてはめるのはやめましょう。男はこうあるべき、女はこうあるべきといった固定観念や偏見をなくして、誰もが自分らしく生きられる社会にしましょう。

ある男子中学生が「自分はお菓子作りが好きだけど、それを話すと『女子力高いな』といじられるから嫌だ」と話してくれたことがあります。その子はもしかすると、お菓子作りをやめてしまうかもしれません。男の子らしくないと言われて好きだったことをあきらめ、将来の可能性に向かって羽ばたくための「翼」を折られてしまうかもしれないのです。

最近、久々に卒業した女子校の同窓会に参加したら、今の校長先生が「うちの学生たちの進路は今、理工系3割、医学系3割なんだよ」と話してくれました。世の中で女性が少ないといわれる分野に、後輩たちが進出していると知り、「女子は理系は不得意、もっと女の子らしい進路を」と言われずに、つまり、翼を折られずに済んだのだとうれしく思いました。

ジェンダーの呪いをなくそう

料理上手をほめるときは「女子力高いね」ではなく、単に「料理が上手だね」と言えばよいのです。料理が得意なのは女らしさではありません。女だから料理が得意というわけでもありません。「そんな細かいことを、いちいち気にするなんて」という人がいます。でも、言葉は文化を作ります。言葉は呪いにもなります。何も考えず発信し続ければ、それが次世代に引き継がれます。

私の母は、拒食症のため59歳で亡くなりました。その時の母の部屋には、壁一面に20代女性が着るような服がいっぱいかけられていました。「女は若さと美しさである」というジェンダーの呪いに殺されたんだと思います。男らしく生きようとしていた父もまた、商売に失敗して自殺しました。「男は稼ぐもの」という呪いに殺されたのでしょうか。「そんな強がらなくてもいいんやで」と声をかけてあげたかった。次世代の子どもたちのためにも、こんなジェンダーの呪いはなくしていかなくなくてはなりません。

パーソナル・イズ・ポリティカル

パーソナル・イズ・ポリティカル(個人的なことは政治的なこと)という言葉があります。第2派フェミニズムのスローガンです。

日本社会では自己責任や個人の努力不足を刷り込まれがちです。たとえば、ワンオペ育児であることをつらいと感じる母親が「これは自分の努力不足であり、自分で解決しなければならぬ」と考えてしまうことはよくあります。本当は、母親が育児を一人で担わなければならないという社会構造のせいで、子育て

しやすい社会づくりは政治の責任です。そのことに気づいて、どうか、自分を責めないでお願いします。

日本は世界の中でも父親の育児時間が極端に少ない国です。アイスランドでは男性の育休は当然の権利で、取らないという逆に不思議がられます。日本では「男は子育てより仕事優先」というジェンダーの呪いが残っていて、男性自身が、権利を奪われていることに気づきづらくなっています。男性もまた、それに気づいて、生きづらさから解放されてほしいです。

著書『ヘルジャパンを女が自由楽しく生き延びる方法』には、架空の男性「モブおじさん」が登場。私との対話を通して、フェミニズムやジェンダーについてアップデートしていきます。男性のみなさんも、ぜひ読んでみてください。



マイクロ・アグレッション に注意しよう

結婚、妊娠、出産の話は、マイクロ・アグレッション(小さな攻撃)につながるが多いので注意が必要です。マイクロ・アグレッションとは、攻撃する意図なく発した言葉が、結果として相手を傷つけてしまうこと。悪意がないゆえに、傷つけたことに気づきづらく、誰でもやってしまいがちです。結婚していない人に「諦めるのは早いよ」、シングルマザーなのに、休日に親子で外出すれば「今日はパパはお留守番?」、子どもが1人だと「2人目は?」、ゲイの人に「どんな女性が好み?紹介してあげようか?」、夫が育休を一年半取得するという妻に「旦那さん、偉いね」など、例をあげればきりがありません。いずれも余計なお世話です。言われた側はモヤモヤし、傷つきます。ここでも「そんな細かいことを、いちいち気にするなん

て」という声がありそうですが、言葉が呪いとなり、誰かを傷つけるようなことがあってはなりません。

安心しておしゃべりできる 居場所づくりを

私は、女子校が居場所で友達とのちょっとした会話で救われていました。その経験から、地元・神戸市東灘区で「ジェンダーしゃべり場」を始めました。「ジェンダーの話がしたいと思うことはあるけれど、今までそんな場所や機会がなかった」という話を参加者からよく聞きます。結婚している人もいない人も、女性はもちろん男性も、さまざまな人々が集まってきます。

この講座も同じですね。誰もが気楽に立ち寄り、みんなでおしゃべりして、誰もがちょっと安心してきて、居心地がいいと感じられる場所づくりを、全国に広げていきたいものです。

アルテイシアさんプロフィール

作家。1976年、神戸市生まれ。
ペンネームのアルテイシアは「機動戦士ガンダム」の登場人物にちなんだもの。
「ジェンダー感覚をアップデートして、性別を問わず、誰もが生きづらくない社会を目指し、共に次世代につないでいこう」と、多数の著書や幅広いメディアを通して呼びかけている。

全国各地の自治体や学校、企業などが開催する講演会でも登壇。



アルテイシアさんのSNSプロフィール画像



Q

最近の「モヤモヤヒット大賞」はありますか? (女性、30歳代)

A

「男は雑談が苦手」と、ある対談で聞いたときです。それがジェンダーに詳しい方々の対談だったのでなおさらでした。ある子どもたちの練習試合を見守っている間、母親同士は雑談してるのに、父親たちはノートパソコンで仕事をやってみたり、スマホを見たりしていたのだそうです。でも、「男は雑談が苦手」というのは決めつけです。男性も上司やクライアントとはゴルフの話とかしてますよね。母親からは「雑談ではなく子どものためにつなかりを作っている。得意だからやっているわけではない」という声もあります。

同じような例で「女性ならではの気遣いや共感力」という言葉をよく聞きます。裏を返せば「男性は気遣いしたり共感したりするのが苦手だからしかたがない」という言い訳に聞こえます。男性だって、仕事なら大いに気遣いしているはずで、「できない」のではなく「しない」だけ。家族には気遣いなくてもよいと思っているのなら、自分にとって大切なものが何かを考え直してほしいと思います。

読んでみよう! アルテシアさんの本

『モヤる言葉、ヤバイ人から心を守る言葉の護身術』(大和書房、2023年6月)

『生きづらくて死にそうだったから、いろいろやってみました。』(講談社、2023年4月)

『田嶋先生に人生救われた私がフェミニズムを語っていいですか!?!』

(田嶋陽子共著、KADOKAWA、2023年2月)

『ヘルジャパンを女が自由に楽しく生き延びる方法』(幻冬舎、2023年2月)

『自分も傷つきたくないけど、他人も傷つけないあなたへ』(KADOKAWA、2022年12月)

『フェミニズムに出会って長生きしたくなった。』(幻冬舎、2021年8月)

『離婚しそうなのに結婚を続けている29の理由』(幻冬舎、2020年2月)

『40歳を過ぎたら生きるのがラクになった』(幻冬舎、2019年2月) 他多数

SNS:



<https://facebook.com/artesia59> ●●

●● <https://twitter.com/artesia59>





アルテイシアさんに質問!

前のページから続き

Q モヤモヤした時、嫌だと感じた時、固まらず、笑顔でスルーもせず、自分の意見を伝える「瞬発力」はどうしたら身につけられますか？
(女性、40歳代)

A 練習あるのみ。ポイントは「反射的な笑顔の封印」です。多くの女性は「女は笑顔で愛想よく」と刷り込まれていて、何を言われても反射的に笑顔で返してしまいがちです。上司から「そんなふうだと、いつまでたっても結婚できないぞ」と言われたら？「そんなあ、やめてくださいよお」などと愛想よくしてはいけません。「えっ？」と驚いて、真顔で固まるのが効果的。「それ、どういう意味ですか？」とさらに静かに聞き返せば、それだけで相手も「あ、ヤバイ」と感じるかも。

でも、あとからでもいいのです。「職場に女性がいると華やかだよね」と上司から言われ、モヤモヤしていたある20代女性が、後輩たちのためにもと、その思いをあとから、丁寧にメールで伝えたそうです。「女性はお飾りで、実力で評価されていない」という思いをうやむやにせず、勇気をもって伝えたことはすばらしいと思いました。

私の著書『モヤる言葉、ヤバイ人から心を守る言葉の護身術』も参考にしてみてください。

Q 男性に、もっとジェンダーやフェミニズムを知ってもらうにはどうしたらよいでしょうか？
(男性、50歳代)

A 男性には男性から伝えるのが一番いいので、男性からどんどん発信してほしいです。なぜなら、女性がフェミニズムを発信するとバッシングされるけど、男性だと叩かれない。特に女性を下に見ている男性は、男性の話しか聞きません。ジェンダーの投稿をシェアしたり、おすすめの本などを自分のSNSで知らせたりするのはどうでしょう。男性同士の趣味の集まりでも読書会を開いたりして、話題にしてみてください。私の著書もテーマにいただければうれしいです。男性だけの集まりでなくても、家族で話してみたり、この講座のような集まりに夫婦で参加してみたりするのもいいかもしれません。きっと、ジェンダーやフェミニズムについて知りたい、話してみたいという仲間が見つかると思います。

Q 女性の役割や女性らしい生き方の押し付けは「男性→女性」だけでなく「ベテラン女性→若手女性」というケースもあると思います。そういう場合の解決方法を知りたいです。 (女性、20歳代)

A ベテラン女性からいわれる方が傷つきますよね。私は、こういう女性を「女王蜂になる人」と呼んでいます。「私の時はもっと大変だった、今の若い子は甘い、いちいち大げさに騒ぎすぎ。自分も苦勞してきたんだからあなたたちも苦勞しなさい」というわけです。

相手が男性だったら「おじさんクオリティー、よし、きた!」と思えますが、女性から「セクハラなんてスルーしたらいいじゃない」と言われると「女性なのに味方になってくれない」とがっかりします。いい先輩たちでも性差別の話題だと「まあ、もっと柔軟に考えた方がいいよ」といわれます。「柔軟に」は、「わきましろ、かわせ」と同義です。そうやってあいまいにしてきたから、セクハラも性差別もなくなるのに。

でも全ての先輩女性がそういう人ばかりでないはず。「自分が苦勞したからこそ、若い人にはそういう思いはさせたくない」という人を見つけてください。相談すればきっと、「それはおかしい。私から伝えてみようか」とカになってくれると思います。仲間を作っていきましょう。

Q お話を聞いていて、子どもたちへのジェンダー教育が大切だと思いましたがいかがでしょうか? (女性、60歳代)

A 私もそう思います。私はジェンダー感覚を掛け算の九九のようなものだと思います。ジェンダー感覚も、子どもの頃から学んで、身につけ、いちいち考えなくてもすむようになれば、「これはアウトだ」と直感で気づくことができるからです。性教育も同じですね。ある女子学生から「彼氏が強引にせまってきて、妊娠の不安があると断ると、おれのこと好きじゃないのかと詰められてしまう」と聞き、本当に深刻な問題だと思いました。性教育の進んでいるオランダでは10代の妊娠中絶が少なく、初性交年齢が高い。つまり性の知識が高まると慎重になり、自分を守れるようになるということです。日本でも性教育を進めた県で10代の妊娠中絶が大幅に減ったという事例があります。ジェンダー教育も性教育も自分を守るために、誰もが公平に受けられるとよいですね。



書名

ヘルジャパンを女が自由に楽しく生き延びる方法

著者名

アルテイシア

出版者 幻冬舎

出版年 2023年2月

心に響いた言葉をスクラップ

★ 日本は「怒ることは悪いこと」という風潮が強いですよね。でも差別やハラスメントやいじめに対して怒る人がいないと、永遠に変わりませんよね？ (p21)

★ 足を踏まれ続けてきた側が「足をどけていただけませんか？」と丁寧に言っても聞いてもらえなければ「痛いんだよ！足をどけてろよ！」と怒って当然だ。(p274)

♡ 怒る、という感情を自分や世間によって押さえつけていることが多々ある。不愉快なことを言われたり、されたりした時にへらへら笑うのはもうやめよう。



★ 子どもは大人をお手本にして育つ。だから大人が尊重し合うコミュニケーションを実践すること、「リスペクトって、何かね？」と自問する必要がある。(p151)

♡ 今は「子どもにジェンダーの呪いをかけないように」と子育てしている親が多くて、希望を感じますね。子どもはよく見ているし、聞いている。何気ない態度や言葉からも親の価値観や姿勢が伝わる。パパとママが得意なことや支え合う姿を見せたい。

★ 「男もつらい」「女はずらい」と農民同士で殴り合って何になる。みんなで一揆を起こそうぜ！ (p271)

♡ これは、以前から思っていること。互いの違いを認め合って、それぞれの幸せを求めて生きていくために、男女共同参画はあると思う。

★ 「男と女、どっちがつらい？」そんな不毛な争いはやめて、みんなでジェンダーの呪いを滅ぼそう！（本の帯より）

♡ 本の帯に惹かれて思わず手に取ることがある。この帯の言葉もよかった。「男 VS 女」という二項対立でないところが◎

このページと次のページでは、講座のメインスタッフで、あびこ市民活動ステーション・コーディネーターの片岡綾さんによる「スクラップ読書ノート」の作り方を紹介します。

アルテイシアさんの著書2冊について、この見開きページと次のページでアイデアを披露しています。参考にして、この冊子の後半にある書き込み式ページで、あなたもスクラップ読書ノートを作ってみてください。

★ : 本からの引用 (言葉のスクラップ) ♡ : 感想メモ



★ このJJには『夢』がある！
それはすべての人が尊重される、安心して暮らせる社会にすることだ。
(p130)

♡ JJ(熟女)という表現も好き。社会を変えるのは自分。まずは自分から行動してみよう。「類友」に出会えるはず。この本に勇気をもらった。

テンポよく読めて、笑えて、泣ける。
ツボにハマったキーワードは文中にしばしば登場する「膝パーカッション(膝を激しく打つことと理解)」読んでいて「これ、そう、その通り!と共感するところで私も膝パーカッション!

私はどんなことをされたり、言われたりすると怒るのか?大切にされていないと感じた時や理不尽なことで叱責された時。自分の感情を大切にしよう。

★ まずは自分が自分を大切にすること、自分を大切にしないと他人も大切にできないから。(p304)

♡ すごく大事なこと。つい人のために動いてしまうけど、時間は限られている。時には踏みとどまって自分を大切にしよう。

感想を直接書いてもよいし思いついたときに付箋紙で追加していくのもいいかも。

左のページに書ききれなかったり、あとから追加したくなったりという時は、右のページも利用してみてください。

新聞の書評欄の切り抜きやなくしがちな本の帯も貼っておくとあとから読み返す時に便利。

書名

離婚しそうな私が結婚を続けている29の理由

著者名

アルテイシア

出版者

幻冬舎

出版年

2020年2月

心に響いた言葉をスクラップ



夫は今でも私を「妻」じゃなく人として見てくれて、何の役割も押し付けてこない。(p39)



「なぜ我々は離婚してないんだと思う？」と夫に聞くと「お互い自由に生きてるからだろう」と返ってきた。(p188)



私は「人として」夫と生きていきたいと思う。(p190)



妻、夫、母、父の役割に自分がとられすぎてしまうと、自分自身と相手を一人の人間として見られなくなることがある。登山がきっかけで出会った夫とのことを思い出すと、まず人間性に惹かれたな。結婚生活において最重要事項かも。



40歳を過ぎて、死を想う機会が増えた。でもそれは、けっして悪いことじゃないと思うのだ。(p139)



常日頃から「おまえさんと暮らせて幸せだ」と言葉で伝えている。(p140)



私も最近身近な人の死に触れ、人との出会いは奇跡だと思っている。縁あって家族になった両親や夫、娘に、普段から気持ちや言葉を伝えたい。



私は最優先すべきは、「夫婦が機嫌よく仲良く暮らすこと」で、家事分担はそのための手段だと思っている。(p79)



50年暮らすにはがまんはらなくていい相手、自分を削らなくてもピッタリ合う「おせんべいの片割れ」みたいな相手じゃないと無理だろう。(p159)



自分を削ったり、大きく膨らませるのは疲れる。そのままの自分を受け止めてもらい、自分も相手を受け止めたい。補い合いと、たまに努力。



夫婦は「破れ鍋に綴じ蓋」で補い合えがいいし、それは夫婦だけに限らない。人には得意不得意があって、多様な人々で支え合うのが社会だろう。(p189)



たしかにその通り。お互いに優しい気持ちを持ちたいものです。

まず書名に度肝を抜かれ
興味を抱いた。

職場の机の上に置いていたら、同僚
に心配された(笑)。

最近、メメントモリ(死を想う)傾向
強し。元気な両親を見ながら、いつ
か来る別れを思い、泣いてしまった。



私の好きなところを
夫に聞いてみよう!
答えてくれるかは謎。



夫の好きなところを
書いてみよう!

無言実行派。口が軽くない。子ども
を大切にする。優しい。私と違う面が
多いので気づかされることが多い。

全編を通じて、随所に散りばめら
れる「だから私は夫と結婚した」
「この夫だから離婚していない」と
いう具体的なエピソードを読んで
いて、激しく同感!

講演会の際に、アルテイシアさん
に「この本が好きです」と言っ
たら、「私もこの本はよく書けたと
思っています」と言われて、嬉し
かった。



右下が片岡さん ▶



家事分担も育児分担も、「私はこれ
だけやっているんだから、あなたもこれ
だけやってよ!」と相手にキレるのはや
めたい。貴重な家族団らんの時間を
イライラして過ごしたくない。



家事で自分の得意なことを書いてみ
る。私の場合は、洗濯や手洗いして
干すのは好きだけど畳むのはきらい。
料理は好きだけど洗い物は腰が重
い。



次のページからは、
あなたの「スクラップ
読書ノート」のページ
です。









我孫子市オンライン男女共同参画連続講座2023 開催報告

みんなが生きやすい社会になる ジェンダー ブックトーク

講座の総合コーディネーター・野際里枝さんによるグラレコ(※)で、オンライン講座の内容を紹介します。講座では、参加者全員が、Zoomでのグループトークやチャットに参加、第3回では会場とZoomをつないでそれぞれがお気に入りの本を発表し、参加者同士の交流の機会となりました。各回終了後のオンラインアンケートにもご協力いただきました。

●第1回【ワークショップ】10月14日(土) 10:00~12:00/LIVE参加者16人
著者に会ってみたいくなる! 『ヘルジャパンを女が自由に楽しく生き延びる方法』読書会

●第2回【講演会】11月11日(土) 10:00~12:00/LIVE参加者21人
作家・アルテシニアさんに聞く 次世代につなぐジェンダー対話
講師:アルテシニアさん

Special Thanks:小林仁さん(あびダンディズムプロジェクト)

パネリストとしてアルテシニアさんとオンライン対談

●第3回【交流会】12月3日(日) 13:00~15:00/参加者18人(会場13人、オンライン5人)
本を通じてジェンダーのモヤモヤを話せる仲間づくり

Special Thanks:室井宏之さん(あびダンディズムプロジェクト)

対面式会場でパネリストとして、お気に入りの本について講座企画スタッフの片岡綾さんと対談

主催:我孫子市/協力:あびこ市民活動ステーション あびじよカフェ



第2回 作家アルティミアンに聞く次世代につなぐジェンダー対話

ノーストワ

フェミニズムは、
性差別をなくそう！
という考えです。

パ
ル
ス！

個人の選択や生き方を
尊重しよう、というコト。

「へまき」と押しつらくない
社会にしようというハシ。

ポ
リ
テ
ィ
カ
ル

言葉は文化をつくる

自我を再視
ジェンダーとつなが
っていくんだ

アルティミアン

フェミニストの敵は男性ではなく
セクシスト(性差別主義者)

男性は「男らしさ」を
押しつらくない

セ・パ両リーグ

怒、てよ、う、た、ん、だ!!

自尊心を
とりもてな!

自尊心を
とりもてな!

自尊心を
とりもてな!

自尊心を
とりもてな!

自尊心を
とりもてな!

自尊心を
とりもてな!

怒、てよ、う、た、ん、だ!!

自尊心を
とりもてな!

男性は「男らしさ」を
押しつらくない

男性は「男らしさ」を
押しつらくない

男性は「男らしさ」を
押しつらくない

男性は「男らしさ」を
押しつらくない

アルティミアンさんに聞きたいこと

第3回 お気に入りの本を持ち寄り、本を通じてジェンダーの「もやもや」を 話せる仲間づくり



意見
交流



オンライン
と
リアル

②
ノーストワ

①
アイス
ブレイク

読書



ハイブリット開催

私のお気に入り...



③
本の紹介

けやきプラザ
11階

手賀沼の眺め

(※) グラレコ(グラフィックレコーディング)は、ミーティングや講演の内容を、文字だけではなく図やイラストで記録する手法です。講座の雰囲気をビジュアルにお伝えします。

モヤモヤがすっきりする言葉を集めよう

スクラップ読書ノート

発行 2024年3月

発行者 我孫子市役所男女共同参画室
270-1192 千葉県我孫子市我孫子1858
TEL：04-7185-1752



我孫子市男女共同参画室
Facebookページ ▶

